

# 同志社大学

## 2015年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2016年 3月 11日提出

所 属	職 名	氏 名
心理学部	教授	杉若弘子
研 究 題 目	心理療法の理論的根拠とクライアントの選択：異文化間比較の視点から	
研 究 成 果 の 概 要	<p>心理療法に対する関心が高まるにつれ、その効果にも強い期待が寄せられている。エビデンスに基づく心理療法の実施は、今やクライアント自らが強く求め、治療機関に要望する時代である。このような状況を背景に、本邦においても心理療法の効果検証に関する研究が盛んになりつつある。本研究課題では、治療技法そのものとは異なる次元にありながら、実際の治療効果に有意な影響を及ぼす指標として知られるクライアントの治療法に対する効果予期と好みに焦点を合わせた研究を継続している。治療技法に対する世間的な評判やセラピストの治療実績に関する情報など、クライアント側の効果予期や好みに影響しうる要因は多様である。本研究では、それらのうち治療の初期段階でクライアントに呈示されることが多い「<b>treatment rationale</b>（治療の理論的根拠あるいは枠組み）」に注目した検討を行っている。それぞれに特徴的な理論的根拠をもつ精神分析療法、認知行動療法、機能分析心理療法という3つの心理療法を取り上げることにより、治療効果への期待が高まる理論的根拠の特定、ならびに、より好まれる心理療法の特徴を明らかにすることが目的である。今年度は、先に米国で実施した調査内容を日本語に翻訳した上で、大学生を対象にした紙媒体による予備的なデータ収集を行った。得られたデータをもとに、米国での実施形態と同様の <b>online survey</b> によるデータ収集に向けた準備を進めている。</p>	